

2024 年度事業報告

2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで

1. 定時会員総会に関する事項

2024 年 6 月 12 日、ビジョンセンター東京 京橋 401B にて会員総会を開催し、
・2023 年度 事業報告の件
を報告し、
・第 1 号議案 2023 年度 貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに財産目録の承認の件
を諮り、原案どおり承認された。

2. 会員の異動状況

本年度の会員の異動は、法人会員については入会 3 法人、退会 1 法人、個人会員については入会 297 名、退会 177 名があり、2025 年 3 月末の会員数は、下表のとおりとなった。

正 会 員	2,217 名
準 会 員	1,470
研 究 会 員	2,034
小 計	5,721
法 人 会 員	109 法人
合 計	5,830 名・法人

3. 事業報告

〔A. 試験関係〕

(A1) 資格試験の実施

2024 年 12 月 9 日～12 日の 4 日間、CBT (Computer Based Testing : コンピューターを利用した試験) 方式にて実施し、2025 年 2 月 17 日に結果発表を行った。

第 1 次試験の総受験科目数は 2,841 科目、うち合格科目数は 975 科目であり、その結果、新たな基礎科目全科目合格者数は 154 名であった。

第 1 次試験 (基礎科目)	数学	生保数理	損保数理	年金数理	会計・経済・ 投資理論
受験者数(人)	915	533	415	416	562
合格者数(人)	272	246	72	279	106
合格率	29.7%	46.2%	17.3%	67.1%	18.9%

第 2 次試験の総受験科目数は 1,059 科目、うち合格科目数は 232 科目であり、その結果、(基礎科目も含めた)新たな全科目合格者数は 119 名であった。

第 2 次試験 (専門科目)	生保 1	生保 2	損保 1	損保 2	年金 1	年金 2
受験者数(人)	353	348	130	106	66	56
合格者数(人)	93	72	20	26	13	8
合格率	26.3%	20.7%	15.4%	24.5%	19.7%	14.3%

(A2) CERA 試験の実施

日本の CERA 試験は、英国アクチュアリー会(Institute and Faculty of Actuaries; 以下、IFoA という)の SP9(Enterprise Risk Management Specialist Principles)をベースとしているが、IFoA では 2024 年 9 月期の SP9 試験がオンライン試験で実施されることを踏まえ、本会の CERA 試験についても、2024 年 9 月 19 日に IFoA のオンライン試験プラットフォームを利用した形で実施した。2025 年 1 月 15 日に結果発表が行われ、受験者数は 27 名、うち合格者は 4 名(合格率 14.8%)であった。新たに CERA 資格を 4 名に付与し、その結果、2025 年 3 月末の CERA 資格者数は 140 名となった。

(A3) 教科書の改訂

2024 年 7 月、過去に作成・公表した生保テキストの正誤表のうち教科書本文(PDF 版)への反映が未済となっていた章について、教科書本文(PDF 版)に反映した。また 2024 年 2 月に改訂した生保テキストについて、製本されたテキスト書籍と最新の教科書本文(PDF 版)を比較した対比表を作成した。

〔B. 教育・研修・研究発表関係〕

(B1) アクチュアリー講座等の実施

アクチュアリー基礎・特論講座を、2024 年 5 月 7 日から 2024 年 11 月 11 日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	受講者数
基礎講座 (6 グループ)	・確率論、統計論、確率論演習、統計論演習(88 名) ・モデリング(91 名) ・生保数理、生命表(106 名) ・損保数理(112 名) ・年金数理(108 名) ・会計学、経済学、投資理論(102 名)	左記の通り
特論講座 (7 科目)	・危険選択論 ・社会保険論 ・人口論 ・保険監督法 ・年金実務法規 ・ファイナンス数理 ・リスクマネジメント論	26 名

アクチュアリー追加演習講座を、2024 年 9 月 18 日から 2024 年 11 月 28 日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	受講者数
追加演習講座 (4 科目)	・生保数理演習(25 名) ・損保数理演習(20 名) ・年金数理演習(24 名) ・モデリング演習(14 名)	左記の通り

ERM 関連の専門知識・技能を学ぶことを目的とした、アクチュアリー専門講座(ERM)を、2024 年 7 月 22 日から 2024 年 9 月 11 日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	受講者数
専門講座 (ERM) (3 科目)	・ファイナンス数理(※) ・リスクマネジメント論(※) ・ERM ※特論講座と共通科目	19 名

アクチュアリー業務領域に有益なデータサイエンス関連の専門知識・技能を、PCを用いた実習により習得することを目的とした、アクチュアリー専門講座(データサイエンス)を2024年12月2日から2025年3月15日の期間で実施した。受講状況は次の通り。

	内容	受講者数
専門講座 (データサイエンス)	【前編】 ・Rの導入と簡単な回帰モデル ・線形回帰モデル ・主成分分析 ・クラスタリング・時系列解析 ・決定木 ・一般化線形モデル ・正則化・一般化加法モデル 【後編】 ・予測モデリングの基本手順 ・探索的データ解析(EDA) ・予測モデリング用のモデル例 ・モデルの選択・評価の方法 ・回帰問題での実践 ・分類問題での実践	19名

(※)前編の各講義の内容は前半・後半に分けられ、前半の授業は事前に録画された講義を視聴するオンデマンド講義とした。

＜受講生の利便性を考慮した対応＞

オンライン会議システムを用いて開催し、一部の科目では対面を併用したハイブリッド形式で開催した。また、講義に参加できなかった受講者向けに録画動画の配信(配信期間は2週間)を実施した。

(B2) 日本アクチュアリー会年次大会(創立125周年)の開催

2024年11月7日、8日の2日間、1日目は経団連会館にて対面形式で、2日目は対面(大手町プレイスホール&カンファレンスセンター)とオンラインを併用したハイブリッド形式で年次大会を開催した。ICA2026に向けた試行的な取り組みとして、海外来賓スピーチでの英語字幕(スクリプト)の投影や、社交行事を意識した、若手・女性会員中心の海外来賓との交流企画を実施した。なお、当日の様子は録画し、大会終了後eラーニングシステムで視聴可能とした。当日のプログラムは以下の通り。

① 大会1日目

- ・開会式(理事長挨拶、祝辞)
- ・「ICA2026の準備状況報告」 庄子 浩 君(ICA2026組織委員長)

125周年記念イベント

題目	講演者
The recent IAA initiatives (AI, Climate Risk, SDGs, Datascience, Future Actuary, etc.)	Charles Cowling 氏(IAA 会長)
伝統・多様性・イノベーションの観点からアクチュアリーの過去・現在・将来を考える	司会：田中 千晶 君(タワーズワトソン) パネリスト： 吉村 雅明 君(ICA2026国際ステアリング委員長) 山田 龍太郎 君(MS&ADホールディングス) 朴 海香 君(メットライフ生命)
Future Role of Actuaries in a Changing World	Kartina Tahir Thomson 氏(英国アクチュアリー会 会長)

特別講演

題目	講演者
記憶の仕組み、夢の意味 ～「思い出せない脳」を克服するには～	澤田 誠氏(名古屋大学 名誉教授)
希少がんにおける抗がん薬の開発	高橋 俊二氏(がん研究会有明病院 顧問 ゲノム診療部部長)

② 大会 2 日目

全体で、論文発表：11 編、プレゼンテーション：10 セッション、パネルディスカッション：5 セッション、英語によるディスカッション・フォーラム：13 セッションが行われた。

(B3) IT 研究大会の開催

2025 年 2 月 7 日、大成大手町ビルにおいて、第 64 回 IT 研究大会を対面形式で開催した。なお、当日の様子は録画し、大会終了後 e-ラーニングシステムで視聴可能とした。本大会の中で、次の特別講演が行われた。

題目	講演者
ー保険業界における効率化ー AI 活用の課題と可能性	高 盛華 氏(PwC コンサルティング)

技術グループによる新技術紹介(ブース展示)や IT 研究会第 1 グループから第 5 グループによる活動報告が行われた。

(B4) 例会の開催

2024 年度は次の例会を開催した。詳細は次のとおり。

実施日程 [テーマ]	題目	講演者
第 1 回 (2024 年 5 月 28 日) [データサイエンス]	AI サミット：アクチュアリーの将来と AI	Charles Cowling 氏 (IAA 会長) 藤澤 陽介 君 (住友生命)
	(第 1 回オンデマンド配信) 6 月 11 日～6 月 24 日	
第 2 回 (2024 年 7 月 23 日) [リスク管理]	確実な将来へ：長寿リスクとそのリスク管理についての考察	パトリック・チャン 氏(RGA 再保険) デイビッド・リポヴィクス 氏 (同社)
	(第 2 回オンデマンド配信) 8 月 6 日～8 月 19 日	
第 3 回 (2024 年 8 月 26 日) [年金・退給制度]	「令和 6(2024)年公的年金財政検証について」 ※日本年金数理人会との共催企画	佐藤 裕亮 氏 (厚生労働省年金局数理課長)
	(第 3 回オンデマンド配信) 9 月 9 日～9 月 22 日	
第 4 回 (2024 年 9 月 3 日) [医療]	「パーキンソン病 - 診断とモニタリングの課題」	Paul Blyt 氏 (SCOR 再保険)
	(第 4 回オンデマンド配信) 9 月 17 日～9 月 30 日	
第 5 回	※プロフェッショナルリズム研修(継続教育)との共同開催	

(2024 年 12 月 2 日) [プロフェッショナル リズム]	(B9 参照) (第 5 回オンデマンド配信) 12 月 16 日～12 月 29 日	
第 6 回 (2025 年 1 月 29 日) [【第一部】生命保 険【第二部】リスク 管理]	【第一部】日本の死亡率の状況 (Before, during and after Covid- 19) 【第二部】パンデミック時の株式市 場のレジーム・シフトに 関する研究	【第一部】勝野 健太郎 君 (住友生命) 【第二部】下山 法之 君 (富国生命)
	(第 6 回オンデマンド配信) 2 月 12 日～2 月 25 日	
第 7 回 (2025 年 2 月 25 日) [IT・データサイエン ス]	安全で有用なデータ活用を実現する 「プライバシー保護合成データ」の 技術動向とアクチュアリー業務での 活用動向のご紹介 ※一般社団法人 情報処理学会との提 携 (C7③参照)	波多野 卓磨 氏 (日鉄ソリューションズ株式 会社 技術本部システム研究 開発センター 主務研究員)
	(第 7 回オンデマンド配信) 3 月 11 日～3 月 24 日	
第 8 回 (2025 年 3 月 21 日) [データサイエンス]	AI 時代におけるアクチュアリー業務 ～ What makes an actuary different?	田中千晶 君 (タワーズワトソン) 山田 剛 君 (タワーズワトソン)
	(第 8 回オンデマンド配信) 4 月 4 日～4 月 17 日	

<会員の利便性を考慮した対応>

オンライン会議システムを用いて開催し、一部の例会では対面を併用したハイブリッド形式で開催した。また、当日参加できなかった会員向けに録画動画の配信を実施した。

(B5) 関西委員会分科会の開催

対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で 2025 年 3 月 19 日に開催した。

実施日程	題目	講演者
(2025 年 3 月 19 日) [生保・年金・リスク 管理]	今年度の分科会活動報告	保険計理分科会 年金分科会 ERM 分科会

(B6) ムーンライトセミナーの開催

対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で 2024 年 12 月から 2025 年 2 月にかけて次の 4 つの題目でそれぞれ複数回開催した。

題目	講演者
生命保険会社の経済価値ベースのソルベンシー規制に関連するリスク管理について、分析・調査してみよう	伊藤 謙二郎 君(ミリマン) 大川 篤 君(ミリマン)
3 か月間、これから IFRS 導入する生命保険会社のアクチュアリーとして働いてみよう	原田 昌彦 君(ソニー生命) 鶴田 正毅 君(ソニー生命)
数理スキルのビジネス活用事例～政策貢献から企業分析まで	松岡 秀貢 君 (デロイト トーマツ リスク アドバイザー)

損害保険会社の経済価値ベースソルベンシー規制の実務検討	セミナー部会
-----------------------------	--------

(B7) 関西セミナーの開催

対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で 2025 年 2 月 19 日に次のテーマで開催した。

題目	講演者
・ 大量解約リスクに対応したリスク管理モデルに関する一考察 ・ インデックスファンド最適化問題に対する、遺伝的アルゴリズムとハイブリッド遺伝的アルゴリズムを用いた性能評価とその比較 ・ プロスペクト理論を用いた保障性保険商品の解約率のモデル化 ・ 回帰分析による期待ショートフォールの計測と保険会社モデルへの適用 保険負債割引評価における社債のデフォルト確率に関する考察	京都大学大学院理学研究科 保険ゼミ生

(B8) e-ラーニングの充実

e-ラーニングに次のコンテンツを公開した。

- ・ 2023 年度年次大会「生成 AI のリスクと革新の交差点：アクチュアリー役割と責任」
- ・ 2023 年度第 2 回例会「「日本の将来推計人口（令和 5 年推計）」の概要について」
- ・ 2023 年度第 4 回例会「Managing Market Risk under New Solvency Regime」
- ・ 2023 年度第 5 回例会「AI に関する歴史・現在・未来～生成 AI の可能性」
- ・ アクチュアリー行動規範とアクチュアリー行動基準
- ・ 2023 年度年次大会「空間時系列モデルのアクチュアリー業務への応用」
- ・ 2023 年度年次大会「アクチュアリー×データサイエンス どう使う？どう学ぶ？」
- ・ 2023 年度年次大会「全世代型社会保障の構築に向けた医療保険制度の対応と公的統計について」
- ・ 2023 年度年次大会「インフレ時代の私的年金制度の在り方」
- ・ 医療費統計の基本分析
- ・ 2023 年度プロフェッショナルリズム研修
- ・ 第 7 回例会「Profession と倫理教育-エンジニアリングを例に-」等
- ・ 生保の実務基準（令和 5 年 3 月 8 日改正版）
- ・ 保険数理における予測モデリングの応用 第Ⅱ巻
（翻訳書籍にテストを付して e ラーニング化）
- ・ 2023 年度 Open Discussion Forum①
- ・ 2023 年度 Open Discussion Forum②
- ・ 2023 年度 Open Discussion Forum③
- ・ 2024 年度 IAA リスクブック 包摂保険

(B9) プロフェッショナルリズム研修の実施

- ① プロフェッショナルリズム研修(継続教育)を、2024 年 12 月 2 日に次の内容で実施した。
(第 5 回オンデマンド配信：2024 年 12 月 16 日～12 月 29 日)

題目	講演者
・AI リスクとガバナンス	阪野 美穂 氏(デロイト トーマツ コンサルティング)

- ② プロフェッショナルリズム研修(初期教育)を、2025 年 3 月 7 日に対面形式で実施した。この研修は正会員資格の認定要件である。

題目	講演者
・アクチュアリーとプロフェッショナルリズム概論	田中 浩一 君(明治安田生命)
・日本アクチュアリー会行動規範	宮本 淳 君(第一生命)
・生保のプロフェッショナルリズム	渡部 仁 君(日本生命)
・グループワーク(自己紹介等)	金澤 巖 君(T&D ホールディングス)
・損保のプロフェッショナルリズム	金子 洋巳 君(損害保険ジャパン)
・年金のプロフェッショナルリズム	日下部 健児 君(みずほリサーチ&テクノロジー)
・ケーススタディ※	金澤 巖 君(T&D ホールディングス)

※アクチュアリーに求められる「コミュニケーション」に関する研修を含む。

(B10) 特定分野研修(初期教育)の実施

特定分野研修(初期教育)を 2024 年 9 月 6、19 日および 2025 年 3 月 13、17 日に実施した。なお、この研修は 2024 年度より正会員資格の認定要件である。

題目	講演者
・金融システム	高橋 智彦 氏(拓殖大学教授)
・アクチュアリアル・リスクマネジメント	藤澤 陽介 君(住友生命)
・データとシステム	岩沢 宏和 君(早稲田大学大学院客員教授)

(B11) CERA に関する研修等の実施

2025 年 2 月 8 日、CERA 試験の合格者を対象に、ERM に関する日本特有の状況や ERM のケーススタディについて講義やグループ学習を実施した。この研修は CERA 資格の認定要件であり、受講修了者は 3 名であった。

(B12) 研究集会の実施

テーマに沿った先端的な研究を題材に会員と研究者・大学院生などが討論し論文の深掘を行うことを目的とし、2024 年度研究集会を 2025 年 2 月 28 日に行った。プログラムは、ICA2026 東京大会に向けて、発表、論文執筆に興味を持っている会員が新たな研究テーマを発見することを期待して構成された。

(B13) アクチュアリー国内研修の実施

2024 年 9 月～2025 年 2 月にかけて、「AI 時代のアクチュアリーの役割の変化と取組むべ

き課題」をテーマに、参加者 25 名を 5 チームに分け調査研究を行い、その成果を 2025 年 2 月 21 日、22 日(場所：千葉県九十九里(国民宿舎 サンライズ九十九里))に発表した。

発表会の冒頭では、佐藤 竜介 氏(金融データ活用推進協会 生成 AI ワーキンググループ 座長)による特別講演が行われた。

〔C. 調査・研究活動〕

(C1) 標準死亡率諮問委員会の開催

第 30 回標準死亡率諮問委員会が、2024 年 11 月 13 日に開催され、「生保標準生命表 2018(死亡保険用)」、「第三分野標準生命表 2018」及び「生保標準生命表 2007(年金開始後 用)」について、2025 年度に継続適用することが了承された。

(C2) 経済価値ベースのソルベンシー規制・会計基準等への対応

金融庁による「経済価値ベースのソルベンシー規制等に関する基準の最終化に向けた検討 状況等について」の公表を受け、金融庁と連携し、「保険負債の検証責任者の適格性に関す るフレームワーク(案)」を作成・公表したほか、監督指針案を踏まえ記載要領、ガイダンス 等を改訂した。

(C3) 保険商品数理に関する検討

生保商品特別検討 WG において、2025 年 3 月、「予定死亡率・発生率・解約率の設定に関す る生命保険商品の数理事項(感染症・不妊治療等)」をテーマとしたハイブリッド形式での意 見交換会を実施した。

(C4) 国際会計基準・保険監督の国際基準への対応

国際会計基準及び保険監督の国際基準について、本会は、IAA の委員会活動への積極的な 参画を通じて対応した。IAA は、国際的なアクチュアリー専門職団体として、IASB(国際会 計基準審議会)及び IAIS(保険監督者国際機構)において行われている検討に関して、パート ナーシップ契約等を締結し、アクチュアリアルな事項に関し助言等を行っている。

(C5) IAA 教育シラバス改訂への対応/試験・教育制度の見直しに関する対応

- ① 本会の教育シラバスの制定(2024 年 3 月)を受けて、試験・研修範囲とシラバスの差異、現 状の課題、外部環境の変化等を踏まえ、今日的な見直しの検討を行った。
- ② 継続教育(CPD)制度の見直しを行い、2025 年度より、プロフェッショナルリズム教育に関す るコンテンツの受講を CPD 達成の要件に加えることで、会員への更なるプロフェッショナ リズムの浸透を図ることとした。

(C6) 少額短期保険計理人の機能発揮に向けた取り組み

少短計理人実務検討部会における検討の結果、「少額短期保険業者の保険計理人の実務ガ イド」について、2025 年 3 月に改正を行った。

(C7) AI・データサイエンスに関する取り組み

- ① データサイエンス関連基礎調査 WG では、データサイエンスの技術がアクチュアリーの実 務にどう生かせるかという観点から、予測モデルや解釈可能な機械学習等について調査・ 研究を行っている。また本会内で調査・研究、会員教育等を行う組織として、AI 関連調査 WG を設置した。
- ② 調査・研究の成果を JoCo2024(IAA セクションの合同コロキウム)で発表するとともに、年

次大会で調査・研究状況を周知した。また、IAA が組成した AI に関するタスクフォースに本会会員を派遣し、調査・研究や文書化に参画した。

- ③ 一般社団法人情報処理学会と AI を含む IT 分野での協業を開始した。今年度は本会の 2023 年度 IT 優秀論文を推薦するとともに、本会第 7 回例会に情報処理学会の学会員を講師として招聘した。

(C8) 気候変動リスク・サステナビリティに関する取り組み

- ① 気候変動リスク・サステナビリティ研究会において、数理事項を中心にテーマを設定し、情報収集・調査・研究を行っている。
- ② 年次大会において、それまでに行った調査・研究の現状を発表した。

(C9) 委員会等の活動

各委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチームにおいては、年度始に定めた目的・ミッションに基づく調査・研究などの活動を行い、その活動状況等を一般向けホームページに掲載するとともに、調査・研究の成果としてまとめたものについては、会員専用ホームページ・会報別冊等を通じて公表した。

〔D. 意見表明〕

(D1) IAA のカウンスルでの投票(電子投票を含む)

- ① 2024 年 5 月、IAA カウンスル・ミーティング(ソウル)において、Data Analytics Virtual Forum の委員長と Mortality Virtual Forum 副委員長の指名の承認、IAA の財務方針の承認、2023 年度の財務諸表の承認、カーボンオフセットに関する方針の承認について、賛成として投票を行った。
- ② 2024 年 9 月、IAA カウンスル・ミーティング(タリン)において、IAA の Brand Policy の改定の承認、IAA の気候変動・サステナビリティ Committee の Terms of Reference(委任事項)の承認、IAA の委員会、フォーラムのリーダーシップ(委員長、副委員長)、セクションのデリゲートの任期満了に伴う指名の承認、IAA の Statutory Committee および Limited Membership Committee のメンバー指名の承認、2024 年度の監査、2025 年予算の承認、IAA 会長、次期会長の選任について、賛成として投票を行った。
- ③ 2024 年 11 月、IAA カウンスル・ミーティング(電子投票)において、Gábor Hanák 氏への IAA メダル授与の承認について、賛成として投票を行った。
- ④ 2025 年 3 月、IAA カウンスル・ミーティング(電子投票)において、気候・サステナビリティ委員会リーダーシップの承認、ルクセンブルク・アクチュアリー会の正会員組織としての入会に関する承認、A&A 委員会とメンバーシップ委員会の統合に関する承認について、賛成として投票を行った。

〔E. 国際関係〕

(E1) IAA 活動

2024 年度末現在の本会の IAA 委員会の委員等は次のとおりであり、委員会活動に積極的に参画している。また、2023 年度に引き続き、ICA2026 東京大会を見据え、正会員の IAA への参画機会を増やしていくことを目的に、IAA バーチャルフォーラムに 2024 年度を任期としてオブザーバーを選任した。

<委員会等への派遣メンバー>

Strategic Planning Committee	吉村 雅明 君(個人)※オブザーバー
Climate and Sustainability Committee	日浦 優吾 君(PwC)
Advance Committee	吉村 雅明 君(個人)
Membership Committee	砂本 直樹 君(富国生命)
Professionalism Committee	田中 浩一 君(明治安田生命)
Education Committee	藤澤 陽介 君(住友生命)
Advice & Assistance Committee	関根 賢二 君(個人)※副委員長
Insurance Accounting Committee	青木 保繁 君(住友生命)
Insurance Regulation Committee	重原 正明 君(第一生命経済研究所)
Future Actuary Task Force	前林 義明 君(明治安田生命)
Pandemics Task Force	勝野 健太郎 君(住友生命)
ISAP8 Task Force	関口 健太郎 君(エーオングループジャパン)
Asia Task Force	関根 賢二 君(個人)※委員長
	山田 龍太郎 君(MS&AD ホルディングス)
AI Task Force	藤澤 陽介 君(住友生命)
	守田 悠三 君(ジブラルタ生命)
	柴田 大樹 君(タワーズワトソン)

<フォーラムへの派遣メンバー>

Pensions, Benefits and Social Security Forum	関根 賢二 君(個人)
	清水 信広 君(全国生協連)※オブザーバー
	臼田 健人 君(第一生命)※オブザーバー
	清水 信広 君(全国生協連)
Social Security Subgroup	日下部 健児 君(みずほリサーチ&テクノロジーズ)※オブザーバー
Enterprise & Financial Risk Forum	藤澤 陽介 君(住友生命)※委員長
	長 信一郎 君(明治安田生命)※オブザーバー
	広瀬 航 君(富国生命)※オブザーバー
General Insurance Forum	山田 龍太郎 君(MS&AD ホルディングス)※委員長
	塩島 薫 君(あいおいニッセイ同和損保)※オブザーバー
	山田 龍太郎 君(MS&AD ホルディングス)
Data Analytics Virtual Forum	谷川 正磨 君(明治安田生命)※オブザーバー
	庄司 裕 君(富国生命)※オブザーバー
Inclusive Insurance Virtual Forum	関根 賢二 君(個人)
	勝野 健太郎 君(住友生命)
Mortality Virtual Forum	横井 裕明 君(朝日生命)※オブザーバー
	長島 崇行 君(太陽生命)※オブザーバー

<セクションへの派遣メンバー>

AFIR/ERM	砂本 直樹 君(富国生命)
	藤澤 陽介 君(住友生命)
	横山 大河 君(みずほ信託)
ASTIN	海老崎 美由紀 君(デロイト トーマツ リスクアド バイザリー)
IAALS (LIFE)	反橋 拓朗 君(ハノーバー再保険)
PBSS	日下部 健児 君(みずほリサーチ&テクノロジーズ)

(E2) 第 49 回 東アジア・アクチュアリー講座(ASEA)の開催

2024 年 9 月 9 日から 13 日までの 5 日間にわたり、東アジアを中心とする 13 の地域から 29 名の参加を得て、本会会員 4 名を加え、アクチュアリーが関わる日本の諸制度の状況等の講義とディスカッションを実施した。

(E3) 国際会議等への派遣等

対面とオンラインのハイブリッド形式で開催されている。

実施日程	派遣先
派遣者	
2024 年 4 月 4 日～4 月 5 日	AI に関する IAA サミット (於：シンガポール)
藤澤 陽介 君、山田 龍太郎 君	
2024 年 5 月 20 日～5 月 24 日	IAA 会議 (於：韓国・ソウル)
上田 泰史 君、砂本 直樹 君、吉村 雅明 君、清水 信広 君、重原 正明 君、青木 保繁 君、田中 浩一 君、山田 龍太郎 君、藤澤 陽介 君、関根 賢二 君、富村 雄三 君、黒田 暁 君、谷川 正磨 君	
2024 年 9 月 13 日	台湾アクチュアリー会、台湾保険保証基金の ERM・フォーラム (於：台湾・台北)
吉村 雅明 君、藤澤 陽介 君	
2024 年 9 月 22 日～9 月 25 日	JoCo2024 (於：ベルギー・ブリュッセル)
海老崎 美由紀 君、横山 大河 君、反橋 拓朗 君、日下部 健児 君、松森 至宏 君、鈴木 理史 君	
2024 年 9 月 27 日～9 月 29 日	IAA 会議 (於：エストニア・タリン)
上田 泰史 君、砂本 直樹 君、吉村 雅明 君、重原 正明 君、青木 保繁 君、富村 雄三 君	
2024 年 10 月 22 日～10 月 25 日	AAC2024 (於：香港)
関根 賢二 君、富村 雄三 君	
2024 年 10 月 27 日～10 月 30 日	SOA 年次大会 (於：アメリカ・メリーランド)
庄子 浩 君、仲田 至 君	
2025 年 2 月 20 日～2 月 21 日	AI に関する IAA サミット (於：サンフランシスコ)
藤澤 陽介 君	

(E4) ICA2026 東京大会に向けた取り組み

- ① スポンサー募集を継続推進するとともに、国内外のアクチュアリーへのプロモーションを実施した。
- ② 大会全体の経費や参加人数等の予測を踏まえ、参加登録料と参加を促進するための本会会員への参加登録料の補助水準を決定した。
- ③ 論文発表を検討している会員を支援し、本会における学術活動をさらに推進するため、発表を目指す会員や有識者を集めた研究会を定期的に開催した。
- ④ 論文募集要領を決定し、2025 年 3 月に大会概要とともに 1st アナウンスメントを発信した。

(E5) 海外アクチュアリー会とのミーティング

- ① 米国アクチュアリー会(SOA)と、IAA ソウル会議の期間中、ICA2026 に関する進捗を説明するとともに、会員エンゲージメントの向上、AI に関する取組み等をテーマに意見交換を行った。
- ② 韓国アクチュアリー会(IKA)と、IAA ソウル会議の期間中、IFRS17 に関する実務基準の日本におけるガバナンス(独立性等)に関する考え方や実務基準の作成状況等について説明を行った。また、ICA2026 に関する進捗を説明した。
- ③ IAA タリン会議への派遣の機会を利用して、2024 年 9 月 25 日に英国アクチュアリー会(IfOA)を訪問した。IfOA が実施したガバナンス改革や政策提言に関する取組みをヒアリングすると共に、会員エンゲージメントの向上、実務基準等の作成状況、および AI に関する取組等をテーマに意見交換を行った。また、ICA2026 に関する進捗を説明した。
- ④ IAA タリン会議への派遣の機会を利用して、2024 年 10 月 1 日にドイツアクチュアリー会(DAV)を訪問した。組織体制、会員数拡大、および若手アクチュアリーへのエンゲージメント向上取組みをヒアリングすると共に、や AI やデータサイエンス等に関する取組みについて意見交換を行った。また、ICA2026 に関する進捗を説明した。

[F. 評議員会]

- (F1) 2025 年 2 月 28 日に第 36 回評議員会を開催し、2024 年度事業報告、2025 年度事業計画(案)について審議した。

[G. 学術活動]

- (G1) 京都大学より保険数学及び年金制度設計論の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君(住友生命)、齊藤 弘行 君(住友生命)、中村 吉男 君(住友生命)、喜多 俊也 君(りそな銀行)、辻 芳彦 君(大同生命)、山内 宗幸 君(日本生命)、柳戸 祐二 君(日本生命)、金澤 幸始 君(日本生命)を派遣した。
- (G2) 大阪大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、佐々田 明彦 君(住友生命)、渡辺 有介 君(大同生命)、柳戸 裕二 君(日本生命)を派遣した。
- (G3) 神戸大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、中川 大輔 君(住友生命)を派遣した。
- (G4) 早稲田大学より生保数理、年金数理及び損害保険の理論と実務、プロフェッショナルリズムの講師派遣の依頼があり、若杉 英樹 君(明治安田生命)、田中 浩一 君(明治安田生命)、浜田 淳一 君(明治安田生命)、荒井 昭 君(明治安田生命)、越後谷 斉一 君(明治安田生命)、関口 健太郎 君(エオン・グループ・ジャパン)、藤澤 陽介 君(住友生命)、塩島 薫 君(あいおいニッセイ同

和)、青木 拓郎 君(損害保険ジャパン)、堀田 周平 君(三井住友海上)、加藤 奈々 君(Spectee)、佐野 誠一郎 君(共栄火災海上)、藤田 卓 君(Akur8)、松森 至宏 君(損害保険ジャパン)、市川 太佳之 君(東京海上日動火災)、實石 晃洋 君(PwC Japan 有限責任監査法人)、西 一郎 君(東京海上日動火災)を派遣した。

(G5) 2024 年 5 月 18 日、早稲田大学大学院会計研究科において、アクチュアリーに興味のある学部生・大学院生を対象としたキャリア支援セミナーが開催され、学術活動の一環として、富村 雄三 君(事務局長)を派遣した。

(G6) 2024 年 6 月 6 日、関西大学システム理工学部数学科において、学部 3 回生を対象にアクチュアリーについて紹介するキャリアガイダンスが開催されることとなり、学術活動の一環として、滑川 敬規 君(関西委員会)を講師として派遣した。

(G7) 2024 年 7 月 1 日、奈良県数学教育会において、高校の数学教員を対象とした研修会が開催され、学術活動の一環として、板倉 史明 君(副事務局長)を講師として派遣した。

(G8) 2024 年 7 月 7 日、NP0 法人日本 FP 協会埼玉支部において、継続教育研修会が開催され、学術活動の一環として、横田 翔一 君(SMBC 日興証券)を講師として派遣した。

(G9) 2025 年 2 月 9 日、NP0 法人日本 FP 協会千葉支部において、継続教育研修会が開催され、学術活動の一環として、横田 翔一 君(SMBC 日興証券)を講師として派遣した。

[H. 表彰関係]

(H1) 2023 年度資格試験理事長賞及び成績優秀者

① 2024 年 6 月 12 日、理事長賞の授与及び成績優秀者の表彰を行った。

・理事長賞

西沢 拓馬 君(個人)

・科目別成績優秀者

数学 1 名、生保数理 2 名、損保数理 1 名、年金数理 1 名、会計・経済・投資理論 1 名、
生保 1 1 名

(H2) 優秀論文の表彰

① 2024 年 11 月 7 日、年次大会において、次の優秀論文を表彰した。

「死亡リスク、長寿リスクおよび解約・失効リスクの将来の所要資本に対するリスクドライ
バーの導出 ～生保数理に基づくアプローチ～」

(丸山 かおり 君(住友生命))

② 2025 年 2 月 7 日、IT 研究大会において、次の IT 関係優秀論文を表彰した。

「Web3.0 時代における共通基盤の実現性について」

(IT 研究会 第 4 グループ)

「保険業界における真の崖～みんなを救う翼(マイグレーション)」

(IT 研究会 第 5 グループ)

[I. 広報・出版活動]

(11) 情報提供機能の充実

- ① 情報発信強化を目的に、X(旧 Twitter)の運用を開始した。
- ② 2024 年 9 月 6 日と 2025 年 2 月 1 日に、学生を主な対象としたアクチュアリーセミナーをオンライン形式で開催した。
- ③ 2024 年 6 月～11 月にかけて、各大学に訪問し、学部生・院生を対象としたアクチュアリー紹介セミナーを実施した。詳細は以下の通り。

大学名	開催日	派遣会員
東京科学 (東京工業)	6/12	山川 達弘 君(住友生命)、住田 翔星 君(三井住友海上)、中田 英祐 君(みずほ信託)
東京	7/1	北原 悠 君(日本生命)、岩山 英之 君(東京海上 HD)、佐伯 俊輔 君(三井住友信託)
東北	7/1	末永 義博 君(第一フロンティア)、酒井 良洋 君(損害保険ジャパン)、遠田 健 君(三菱 UFJ 信託)
慶應義塾	7/2	青木 一真 君(明治安田生命)、縣 裕一郎 君(損害保険ジャパン)、今中 亮介 君(三菱 UFJ 信託)
一橋	7/3	村手 悠帆 君(第一生命)、緒方 聖一 君(東京海上 HD)、矢作 麻希子 君(住友生命)
京都	7/4	今井 健二 君(日本生命)、山本 周平 君(住友生命)、高橋 諒弥(大同生命)、西岡 謙太(損害保険ジャパン)
神戸	7/5	中川 大輔 君(住友生命)、青木 佑磨 君(あいおいニッセイ同和)、奥田 健二 君(日本生命)
大阪	7/9	青木 保繁 君(住友生命)、東 洸平 君(三井住友海上)、和田 亮彦 君(りそな銀行)
名古屋	7/11	中原 慎介 君(明治安田生命)、小島 健一郎 君(あいおいニッセイ同和)、附田 舞 君(第一フロンティア)
お茶の水女子	7/19	湯浅 文 君(明治安田生命)、貝本 悠 君(あいおいニッセイ同和)、藤田 佳子 君(りそな銀行)
東京理科	11/27	木村 健一 君(富国生命)、須藤 孝浩 君(あいおいニッセイ同和)、黒岩 遼平 君(りそな銀行)

- ④ 2024 年 9 月に、一般向けホームページの「合格者の声」について、2024 年度版としてリニューアル(紹介メンバーの入替え)を行った。
- ⑤ 2025 年 3 月に、本会ホームページの「CERA 資格取得者の声」のリニューアル(紹介メンバーの入替え)を行った。
- ⑥ 高校生向けの広報活動の試行的取組みとして、2024 年 11 月 9 日に長野県松本深志高校で開催された教養ゼミに上田 泰史 君(明治安田生命)、山中 遥太 君(明治安田生命)を派遣した。

(12) 関連協会の事業への協力活動

- ① 公益財団法人 日本数学検定協会が主催する公益目的事業「数学甲子園 2024」の本選に協賛する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

(13) 会報等の刊行

- ① 会報

号数	題目
第 77 号	・ 新契約価値による諸評価に係る整理について ・ リスク分担型企業年金の財政運営に関する一考察 ・ 日本の経済価値ベースソルベンシー規制における株価変動リスクの軽減措置について ・ 死亡リスク、長寿リスクおよび解約・失効リスクの将来の所要資本に対するリスクドライバーの導出～生保数理に基づくアプローチ～ ・ 流動性リスク管理に関する一考察

② 会報別冊

号数	題目
第 299 号	アクチュアリアルマネジメントを理解する ・序文 ・第 1 章 導入 ・第 2 章 リスク管理フレームワーク ・第 3 章 プロフェッショナルであること ・第 4 章 金融商品の必要性 ・第 5 章 アクチュアリー業務の文脈 ・編集者・寄稿者に関する注記 ・用語集 ・補遺 1：『アクチュアリウスからアクチュアリーへ：カナダと米国におけるダイナミックな専門職の成長』抜粋 ・補遺 2：「候補者のための行動規範」 ・補遺 3：「エネルギー市場のアクチュアリー」
第 300 号	米国アクチュアリー協会(SOA)の「アクチュアリーのための生成 AI 入門」＜国際関係委員会＞ ・エグゼクティブサマリー ・セクション 1: イントロダクション ・セクション 2: 生成 AI のイントロダクション ・セクション 3: アクチュアリーのための生成 AI の適用 ・セクション 4: 生成 AI の実務上の応用 ・セクション 5: まとめ（結論） ・セクション 6: 謝辞 ・付録 A: 主要な生成 AI モデルと技術の概要 ・付録 B: 用語集
第 301 号	米国会計基準における長期契約の会計処理に対する ASU 2018-12 の適用 2023 年 12 月 財務報告委員会長期契約作業部会 米国アクチュアリー会＜国際関係委員会＞ I. 集約レベル II. キャッシュ・フローの前提条件の設定と再測定 III. 割引率前提 IV. 支払備金と長期医療保険 V. 短期払い契約 VI. 繰延契約獲得費用

	VII. 再保険
第 302 号	第 64 回 IT 研究大会報告<IT 委員会> ■開会の辞<公益社団法人 日本アクチュアリー会 IT 委員会委員長 今野 英史> ■理事長挨拶<公益社団法人 日本アクチュアリー会 理事長 上田 泰史> ■【特別講演】ー保険業界における効率化ー AI 活用の課題と可能性 ■保険会社における生成 AI の活用<調査・研究グループ(東京 1)> ■DX をはじめとする IT 投資コストの評価に関する研究<調査・研究グループ(東京 2)> ■保険システムへの新技術の適用<調査・研究グループ(東京 3)> ■生命保険業界におけるレガシーシステムの課題とクラウドネイティブ化への移行戦略<調査・研究グループ(東京 4)> ■100 年先でも大丈夫！～保険業界を支える IT 基盤戦略～<調査・研究グループ(関西 5)>

③ アクチュアリージャーナル

号数	題目
第 127 号	・例会報告 2023 年度第 6 回例会「人的資本経営 ～本来求められていることと現状～」 ・寄稿 第 2 回金融データ活用チャレンジへの参加 ・翻訳 ASTIN Bulletin Abstracts ・報告 2023 年度 AFIR 関連研究会 論文研究活動報告(2022 年 Virtual Colloquium の論文輪読) ・報告 2023 年度 関西委員会分科会活動報告 ・報告 2023 年度 ムーンライトセミナー ・Interpretable Machine Learning ・報告 2023 年度 アクチュアリーセミナー ・2023 年度 新 C E R A 資格者決定 ・2023 年度 継続教育制度履修目標達成者 ・2023 年度資格試験合格者発表 ・連載 アクチュアリーリレートーク(第 28 回)
第 128 号	・『NDB サンプリングデータを用いた一人当たり医療費推定における、レセプトデータの利用可能性と実務上の課題の検証』報告 ・報告 日本 FP 協会埼玉支部での講演を終えて ・WHAT SHOULD AN ACTUARY KNOW ABOUT ARTIFICIAL INTELLIGENCE?の翻訳 ・2023 年度継続教育の履修状況について ・2024 年度 委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチーム名簿 ・委員会活動紹介(試験・教育企画委員会) ・連載 アクチュアリーリレートーク(第 29 回)

第 129 号	・JoCo2024 (ベルギー／ブリュッセル開催) の参加報告 ・台湾での ERM カンファレンス参加報告 ・報告 Mario Wüthrich 教授とのデータサイエンスに関する座談会 ・報告 第 49 回 ASEA 開催 ・報告 女性会員による名刺交換会の実施 ・IFoA の 2023 年アジアカンファレンス出席報告 ・委員会活動紹介 (大会委員会、国際関係委員会) ・連載 アクチュアリーリレートーク (第 30 回)
第 130 号	・書評 経済価値ベースのソルベンシー規制－生保経営大転換を読む－ ・報告 2024 年度 アクチュアリーセミナー ・報告 SOA の Exam PA: Predictive Analytics の翻訳 ・委員会活動紹介 (企画委員会) ・連載 アクチュアリーリレートーク (第 31 回)
特別号 ＜リスクと保 険第 21 号＞	・講演「気候変動リスクへのアプローチ」 ・論文「交互作用効果の計量化および可視化に関する考察」 ・論文「交通量変動を考慮した新型コロナウイルス感染症の流行期における都道府県別自動車事故頻度の分析」

- ④ 2024 年度資格試験問題集
- ⑤ 2024 年度年次大会報告集

(I4) 広報誌の改訂

2024 年 5 月、個人会員数の業態別内訳・年次別推移および法人会員一覧の更新等の定例対応のほか、特定分野研修 (初期教育) が正会員要件となったことに伴う記載内容の見直しを行った。

〔J. その他〕

(J1) 中長期的な事業戦略の見直し

中長期的な事業戦略のさらなる活用に向けて、外部環境の変化を踏まえ、今日的な見直しを行うとともに、中長期的な視点で会・委員会等の活動が推進されるように、より具体化した取組内容を設定した。また、単年度計画の策定時に中長期的な事業戦略との関連性を高めるとともに、適時振り返りや課題認識を行うことで PDCA 運営を高度化した。

(J2) 事務局

- ① 新正会員を対象に、アクチュアリー会の活動・運営に対する理解を高めるとともに、CERA やデータサイエンス等の新しいチャレンジをするきっかけを作ることを目的として新正会員オリエンテーションを 2024 年 6 月 7 日に実施した。
- ② 本会事務局職員が柔軟で多様な働き方ができるように、在宅勤務を導入している。
- ③ 事務局運営の中長期的な安定化を図るため、事務局職員 1 名を採用した。

(J3) 持続的に成長する組織に向けた取り組みの充実

- ① 女性会員間の交流機会創出や活躍機会を増やす取組みの一環として女性会員による名刺交換会を開催し、87 名の女性会員が参加した。
- ② 若手会員の活躍機会の創出や会員の参画意欲の向上のため、研究会等委員の公募を実施

し、新たに 43 名を委員に選任し、研究態勢を拡充した。

- ③ 若手会員の活躍機会の創出や会員の参画意欲の向上のため、2025 年度の委員公募の対象組織を拡大した。

(J4) 透明性を高める観点から、本会の事業活動について開示する情報

自律的ガバナンスの充実、透明性の向上の観点から、令和 6 年度報告より、事業報告等に係る提出書において、以下の事項を開示する。

- ① 海外送金の有無及びそれに関連するリスク軽減策の有無

本会では海外送金を行っているが、すべての業務について海外の送金先の口座の確認を行っており、また、相手側が受領したことを確認できる手段を有している。

- ② 常勤・非常勤別の理事数・監事数、理事・監事等ごとの報酬等の総額

本会の常勤・非常勤別の理事数・監事数、支払っている報酬の額は以下の通りである。

	理事又は監事の数		報酬(円)
		うち常勤	
理事	24 人	0 人	0 円
監事	3 人	0 人	133,332 円